

質問

日本平動物園の開園はいつ？

動物園で働いている人は何人？

動物園の広さ(面積)は？

動物園の人気動物は？

どのくらいの動物がいる？

どのようにして動物を集める？

なぜ、日本平動物園のシンボル動物はレッサーパンダ？



飼育員の一日の仕事は？

獣医師の一日の仕事は？

飼育員などの職員の休みはどのくらい？

答え

昭和44年(1969年)8月1日です。

飼育員・獣医師や売店で働いている人など、全部で約 80 人、そのうち飼育員は約 25 人です。

駐車場を含めて約 13ha(ヘクタール)です。(東京ドームの約 2.5 倍)

特に人気があるのは、ホッキョクグマ、レッサーパンダ、ペンギン、キリン、ゾウです。

約180種類、700点(頭・匹・羽)です。

他の動物園で生まれた動物を、もらったり(無償譲渡)、借りたり(ブリーディングローン)することが多いです。海外の動物園と動物を交換したり、買ってくることもあります。

レッサーパンダの飼育は 1980 年に、中国の西安動物園から贈られ、動物園にやってきたことから始まりました。日本平動物園では、日本国内のレッサーパンダの血統登録を担当していることから、日本平動物園のシンボル動物はレッサーパンダとなっています。

主に、エサ作り・エサやり、寝部屋・放飼場(運動場)・プールの掃除などを行います。ほかにも、運動場の丸太の入れ替えを行ったり、休園日には機械類の点検なども行います。体調不良などを発見するため、作業を行いながら動物の観察をすることも重要な仕事のひとつです。

朝と夕方に園内を回り、飼育員から動物の様子や体調について聞き取りをしながら全ての動物の健康チェックを行うと同時に、ケガや病気の動物の治療を行います。動物園内には、動物病院があり、園内の動物以外に、ケガや病気で運ばれてきた野生の動物が入院しているので、入院中の動物の治療や薬の調合を行います。

動物園の休みは毎週月曜日と年末年始(12月29日～1月1日)ですが、動物園が休みでもエサをあげるなど動物の世話をしなければなりませんので、職員は働いています。職員は1週間に2日ずつ交代で休みますので、飼育員は2人ずつペアになって、もう一人が休みの日は、その担当動物の飼育も行います。

うれしいのはどのような時？

大好きな動物たちのそばに常にいることができ、動物や自然の素晴らしさ、命の大切さなどを来園者の方に直接伝えることができるのは、大変やりがいがあり、うれしいことです。また、動物の子どもが生まれて、すくすく育っていく様子を見ているときには、特に喜びを感じます。

動物を飼育するときの苦労は？

体の大きなゾウは、エサもフンも1頭あたり1日で約 60kgもあります。一方、小さな動物も、エサを細かく切ってあげなければならないため、大型動物とは違う苦労があります。

猛獣の場合は、扉の鍵を掛け忘れると、私たち人間や他の動物の命が危険にさらされてしまうため、非常に神経をつかいます。

ゾウや類人猿(チンパンジーやオランウータンなど)は非常に頭が良いため、信頼関係を築いて、動物に言うことを聞いてもらえるようになるまでが大変です。

どの動物も、人間のように言葉を話すことができないため、注意深く観察して、体調不良やケガに気付いてあげなくてはなりません。そして、やはり病気やケガの時の治療や世話が大変です。特に猛獣などは、麻酔をかけてからでないと直接治療ができません。また、毎日麻酔をかけることもできないので非常に苦労します。なお、大きな病気にかかった時などには、夜も動物園に泊まって世話をすることもあります。

ハプニングはある？

トラがモート(空堀)に落ちてしまったことがあり、自力で上がることができなかつたため、麻酔をかけて網にくるみ引き上げました。ほかには、ロシアから来園したホッキョクグマの待ちに待った公開日の早朝に主役のホッキョクグマがケガをしまい、多くの報道関係者や遠方からのお客様が集まる中、急遽公開を延期しました。しかし、抜群の回復力で1週間後に元気なホッキョクグマを公開することができました。

動物たちはおやつを食べる？

レッサーパンダは、一日中好きな時に竹の葉を食べられるようにしています。キリンやバーバリーシープには、昼間にも葉っぱや草をあげています。ゾウにはトレーニングの時にサツマイモなどをあげています。

ストレスを抱えた動物がいたら？

ストレスの種類によります。動物同士のトラブルの場合、別々にすることもありますが、一度別々にすると、後で一緒にすることは不可能なため、慎重な判断が必要になります。また、退屈していることが原因になっている場合は、おもちゃを与える、エサをこまめにあげるなどの工夫をします。このように飼育環境を工夫し、限られた環境で動物たちが豊かな生活を送るための具体的な方法を「エンリッチメント」といいます。

死んでしまった動物はどうする？

まずは、死んだ原因を調べるために解剖します。他の動物にうつる(感染)する病気の場合すぐに対策を取らなくてはなりません。また、死んだ原因がはっきりすることで、より良い飼育方法が分かることもあります。解剖が終わると、焼却します。人間でいうと火葬にあたります。貴重な動物の場合は、はく製や骨格標本という形で保存することもあります。これらのはく製や骨格標本は園内の資料館に展示してあります。なお、動物園では、毎年秋分の日には動物慰霊祭を行っています。1年間に亡くなった動物を思い出して、そのリストを動物慰霊碑の下に保管します。動物慰霊碑はオオアリクイ舎と池の間にあります。

絶滅しそうな動物も動物園にいる？

日本平動物園では、カンムリシロムク、レッサーパンダ、フンボルトペンギンなど多くの絶滅危惧動物を飼育しています。これらの動物を保護するために、日本中あるいは世界中の動物園が連携しています。このような活動を「種(しゅ)の保存」といい、日本平動物園は、日本中のレッサーパンダの「種別調整者(コーディネーター)」を担当しています。

動物が絶滅しそうになるのはなぜ？

複雑で様々な原因があります。人間による「生息地の破壊」、「密猟」、「外来種の導入」が主な原因です。その中でも一番影響があるのは、実は「外来種の導入」です。例えば、アマミノクロウサギやヤンバルクイナが絶滅の危機にさらされていますが、人間が毒蛇のハブを退治するためにマングースを導入したが、ハブではなく、食べやすいウサギなどばかりを食べてしまい、本来の生態系を壊してしまったからです。

絶滅しそうな動物を救うために私たちができることはなに？

様々な方法がありますが、これだけをすれば動物を救えるというものはありません。一番大切なものは、自然界のバランス(生態系)です。1つの動物を守るためには、その動物が関わる生態系全体を守らなくてはなりません。そのために、その動物がどのような生活をしているか調べ、必要な物を確保しなければなりません。その場所で暮らしている人間と共存できるような仕組み作りが必要です。生息地で動物をうまく守れない場合は、一旦動物園などの飼育環境下で繁殖させてから野生にもどすこともあります(例:日本のトキ、コウノトリ)。直接動物に関わらなくても、このような活動に募金を送ることも重要な活動のひとつです。